剣岳チンネ左稜線　八ツ峰Ⅵ峰フェース

2011/8/4～8

メンバー L 白土、斉藤（記）

以前より登ってみたいと考えていたチンネや八ツ峰Ⅵ峰フェースといった剣岳の岩場。今回白土さんからの誘いでやっと実現する事が出来た。

8/4 黒部立山アルペンルートの始点となる、扇沢より始発を乗り継ぎ室堂へと向かう。アルペンルートはトロリーバス、ケーブルカー、ロープウェー再びトロリーバスと乗り継ぎ、黒四ダムを経由し、立山、剣岳登山の起点となる室堂平へと至る。富山屈指の観光地という事もあり、アルペンルート中は観光客でいっぱいであった。初めての道のりの為、観光気分でそれぞれの交通機関に乗り込むが、大きなザックを背負った我々には少しかったるい道のりだ。室堂平に着き、身支度を整えるとその日のテン場となる熊ノ岩までの長い歩きをスタートする。観光客の姿も雷鳥平を過ぎるとすっかり消え、山ヤの姿が多くなる。別山乗越まで続く長い登りをあえぎながら登る。別山乗越から剣沢の長次郎谷の出合までは延々と下りにかかる。途中から剣沢の雪渓に降りてアイゼンを着けて下り続ける。源次郎尾根の末端を過ぎると長次郎谷が左より出合い、その谷を登りにかかる。入山一日目はいつもの事だが長次郎谷の登りではかなりバテてしまった。白土さんに遅れること 20 分でテン場となる熊ノ岩に到着する。熊ノ岩のテン場は長次郎谷を右俣、左俣に分ける中間尾根の末端の台地にあり、八ツ峰Ⅵ峰フェースを目の前に見る事が出来る非常に快適なテン場だ。この日は翌日の早出を控えていた為、早々に床に就く。

扇沢 7:30～黒部湖 8:15～黒部平 8:30～大観峰 9:00～9:10 室堂平 9:30～11:48 別山乗越 12:12～13:50 長次郎谷出合～16:20 熊ノ岩

熊ノ岩 BC

8/5　いよいよこの日は今回の山行のメインイベントであるチンネ左稜線の登攀だ。まだ、夜空に星の瞬く中、長次郎谷右俣の雪渓を登る。所々シュルントが開き乗り越すのに苦労する。池ノ谷乗越に一番乗りで到着するが、少しルートを間違ってしまった間に後続の 2 人パーティーに先を譲ってしまう。落石を嫌い先行に間隔をおいた後、浮石だらけの池ノ谷を慎重に下り、三ノ窓にようやく着いた。三ノ窓からチンネを望むとチンネ左稜線にはすでに 5 人パーティーが 2、3 に分かれて取り付いていた。かなり登るのが遅いようだ。取り付きに移動し、先行の 2 人パーティーの人達と「あの 5 人パーティーを追い越さないと大変だね。」などと話す。暫くの順番待ちの後、白土さんのリードにて登攀を開始する。フリクションの効く乾いた岩を楽しみながら快適なクライミングが続く。数ピッチの内に先行 5 人パーティーを追い越し、順調にとばしていく。ピッチを重ねるごとに展望も拡がり、フェースにリッジにとバラエティーに富んだルートを楽しむ。

チンネ左稜線核心部に挑む白土さん

見せ場の核心ピッチは白土さんのリードにて突破する。残りのピッチを坦々とこなし、終了点に着くとさすがに疲れてしまった。ルート図には 13 ピッチと書かれているが、もう少し少ないピッチで抜けられたと思う。(何ピッチで抜けたか忘れてしまいました。)チンネの頭からは歩いて池ノ谷へと下り、テン場への帰路につく。テン場ではチンネ左稜線登攀の余韻に浸り、酒を楽しむ。その夜は強い雨が降り始め、朝まで断続的に降り続いた。

テン場 3:40～4:25 池ノ谷乗越～5:25 三ノ窓～左稜線取り付き 6:50～10:40 チンネの頭 1135～12:15 熊ノ岩

8/6 起床予定時刻を過ぎても雨音が聞こえていた為、アラームを消して寝続ける。気がつくと外が明るくなっていた。テントから這い出して、八ツ峰に目を移すと取り付くクライマーの姿が確認出来る。予定ではその日はチンネの中央チムニーを登る予定であったが、時間も時間だという事で八ツ峰Ⅵ峰のどこかを登ろうか、と決定する。誰も取り付いてないAフェースの魚津高ルートに私のリードで取り付く。やっぱり、まだ岩が濡れていて早速、行き詰まる。そうこうしているうちに、霧雨も降り始め、まんまとフォールしてしまった。再度、チャレンジするもやっぱり越えられず、回収して下りることにする。取り付きに下りた後、小雨も降り始め、撤収する。その後は一日テントで暇をもてあます。

8/7 この日の予定はチンネ中央チムニー～a バンド～b クラックだ。長次郎谷右俣の雪渓も 2 回目なのでスムーズに登れる。池ノ谷乗越で夜が明けるのを少し待ち、池ノ谷を下る。三ノ窓に着くと後立山より昇る朝日が美しい。前夜に降った雨でまだ岩が濡れていた為、暫くは三ノ窓で待機していたが、待ちくたびれ、取り付きまで移動する。岩が濡れていると楽とはいえない、一登りをこなし、取り付きま

で着くが、やっぱり少し濡れていた。少し待てば乾くだろうと待機するがみるみるうちにガスってきた。登攀を中止するか、どうか、と話すがどうにも諦めきれず、晴れるのを待ち続ける。少し明るくなり始めた頃、心配ではあるが、やっぱり、登ることに決定する。1P 目をリードした白土さんから「行ける。行ける。」との声に安心する。2P 目は私がリードする。フリクションの効く快適な岩だと思って登っていたら、結構濡れている所にでくわす。「白土さん、濡れているんで、頼みますね。」と一声掛け、その場を越える。2P ロープを伸ばし、A バンドに辿り着く。すっかり霧も晴れてきて、やっぱり、登って良かったと思った。緩傾斜帯を 1P ロープを伸ばし、高度感の有るトラバースで更に 1P。最後のピッチは b クラックを直上して終了した。短いが、手頃でなかなか楽しいルートだった。チンネから早々に引き揚げ八ツ峰Ⅵ峰を登ることにする。登ろうと考えていた C フェース、D フェース共に、渋滞していて空きそうも無い為、前日の A フェース魚津高ルートのリベンジをする事にした。岩が濡れていたせいか、ルートが違っていたのか、少し辛く感じる部分もあったが、1 時間程で終了点に着く。終了点に着くと間も無く雨が降り出し、テントにもぐりこむと同時に、どしゃぶりの雨になった。これで今回の山行の全ての登攀を終え、充実感に浸りながら酒を飲む。

熊ノ岩 3:10～3:50 池ノ谷乗越～4:50 三ノ窓～中央チムニー取り付き 8:00～チンネの頭 10:00～10:45A フェース魚津高ルート取り付き 11:10～12:10Ⅵ峰の頭～12:40 熊ノ岩

8/8 とうとう下山日になってしまった。この日の予定は長次郎谷左俣をつめ、剣岳の山頂を経由してから下山だ。出発してからずっと立ち込めていた霧も山頂に着く直前に見事に晴れ、素晴らしい展望を拝む事が出来た。熊ノ岩をベースにするクライマーの多くは山頂

を踏まずに下山していると思うが、是非、山頂を踏んでの下山をお勧めする。後は青空の下を室堂に続く長い道のりを下山に就いた。室堂のトロリーバスの駅に着いて間も無く、強い雨が降り始めた。今回の山行では毎日のように午後になると夕立にあった。運良くかわす事が多かったが早め、早めの行動を心掛けたいものだ。

剣岳にはまだたくさんの魅力的なルートが有り、また近い内に訪れたいと思う。

熊ノ岩 4:30～5:20 稜線～6:00 剣岳山頂 6:38～7:30 前剣～10:05 別山乗越 10:18～12:10 室堂平

剣岳山頂